



高プロToday2025

No.48 April, 2025

一般社団法人日本鉄鋼協会

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館 5F
URL : <http://www.isij.or.jp/> Tel : 03-3669-5932 / Fax : 03-3669-5934
発行者 : 林 幸 (東京科学大学)
編集者 : 松浦 宏行 (東京大学)、龍 淳子 (日本鉄鋼協会)

1. 高温プロセス副部長巻頭言

高温プロセス部会 副部長 樋口 謙一 (日本製鉄 (株))

2024 年度より高温プロセス部会の副部長を務めさせて頂いております日本製鉄の樋口謙一です。これまで、製鉄プロセスフォーラム座長として、主に産学連携を中心とした活動を推進してまいりました。この経験を活かして、産業側から部会のますますの活性化に尽力していきたいと思っておりますので、宜しくお願いいたします。

この 30 年間で世界の CO₂ 排出量が約 1.5 倍となる中で、我が国も 2021 年に地球温暖化対策推進法が改正され、2030 年度において 2013 年度比で温室効果ガス 46%削減を目指すことを表明しました。足元では、2050 年の排出量ネットゼロ化に向けた 2035 年、2040 年の具体的な削減率の数値目標が議論されています。その中でも、大きな排出量を占める鉄鋼業は、大きな使命感を持って温暖化対策を進めていく必要があり、各鉄鋼会社が、将来の鉄鋼業の

カーボンニュートラル化に向けた取り組みを強化し、大規模な国家プロジェクトも進められています。課題が大きいが故、適宜調整をしながら遂行していく必要がありますが、産学連携による業界の取り組みの重要度が年々高まっています。

本部会においても、前述の世界的な CO₂ 削減課題に対応した長期的なロードマップの改定を完了させました。今後は、研究会や産学連携の企画をタイムリーに打ち出し、分野横断型のフォーラム活動を積極的に推進し、部会の更なる活性化を目指してまいります。今後とも皆様の積極的なご協力をよろしくお願いいたします。



2. 高温プロセス部会への提言

鉄鋼材料の高温プロセスにおいては、二酸化炭素排出量の低減という大きな課題が課されており、鉄鋼プロセス工学の大きな変革の時期を迎えているように思います。研究者数の限られた日本において、同研究分野が発展するためには情報共有や意見交換が重要であることは言うまでもありません。日本鉄鋼協会の講演大会やフォーラム活動、研究会は、研究者が意見をかわすプラットフォームとして大きな役割を担っています。学会発表と同様に有力な情報共有方法として、論文投稿があるかと思えます。日本鉄鋼協会の論文誌 (ISIJ International、鉄と鋼) を拝見しますと、各分野を進展させる重要な知見が継続的に報告されている点に感銘を受けます。一方で、本会論文誌の論文引用の傾向を拝見しますと、論文掲載後数年してから論文が引

助永 壮平 (東北大学)

用され始めるケースが散見されます。論文に気づかれるまでに時間を要してしまったことが原因であるとする、
「もったいない」ように思います。発表した論文を宣伝することに品性を疑う皆様もいらっしゃるかと思いますが、研究活動の結晶である論文による情報共有を迅速に行うことは分野の発展に不可欠と考えます。論文を発表されましたら、関連するフォーラム内で共有する、所属先のホームページや SNS で公開するなど、一手間を加えてはいかがでしょうか？地道に見える一手間が論文の Visibility 向上、ひいては高温プロセス分野の発展に寄与すると思います。



3. フォーラムトピックス

若手フォーラム活動報告

本フォーラムは、鉄鋼材料の高温プロセスに関連する若手研究者同士の交流や共同研究を推進することを目的に活動しております。2023年度から2年間の間に、3回の研究会・工場見学会ならびに2回の協賛研究会を実施いたしました。研究会では、堤太一様（JFE 条鋼）、山田亮先生（北海道大学）、青木宙也様（プロテリアル）、宗岡均先生（東京大学）、深谷宏先生（東北大学・日本製鋼所）、三澤史登様（東京製鐵）に、それぞれの取り組みについてご講演い

加藤 謙吾（富山大学） **鳴海 大翔**（東京大学）

ただきました（講演者の所属は講演当時のもの）。講師の皆様には、研究会後も本フォーラム委員として活動にご参加いただいております。2025年度は、対面で2回程度の研究会や工場見学会の開催を予定しております。これらを通じて、若手研究者間のつながりを広げるとともに、産学の枠を超えた交流を活性化できるように活動を進めていきたいと思っております。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

4. 第189回春季講演大会開催報告

①高温プロセス部会推薦による創立110周年記念招待講演の紹介

日本鉄鋼協会の創立110周年記念事業として、第189回春季講演大会では各学術部会から推薦された講演者による記念講演が各セッションで開催されました。高温プロセス部会からは森田一樹先生（東大教授）が推薦され、3月9日午後のセッション「新製錬プロセス1」において、「次世代高プロジヤパンで製鉄・製鋼の融合転生を」と題した講演が行われました。

始めに、これまでの研究課題の概要がそのときどきの時代背景と共に紹介されました。日本社会の成熟とともに鉄鋼製造プロセスにおいても生産量確保から徐々に品質確保や環境調和性も同時に求められるようになり、その流れを汲んだ研究を通じて、社会の要求に応えつつ、同時に高温プロセスを支える熱力学等の物理化学の発展に多に貢献されてきたことがわかりました。また、日本鉄鋼協会のみならず、金属生産プロセスを学術面から支える学会、団体等での活動についても紹介され、日本国内の研究活動の根底を支える役割を担ってこられたことと同時に、国内外で日本代表として、あるいはオピニオンリーダーとして高温プロセス分野を牽引されてきたことを再認識することができました。

これからの鉄鋼業を担う会員諸氏に向けて、鉄鋼業が直

講演者 **森田 一樹**（東京大学）



面するカーボンニュートラル化およびサーキュラーエコノミー確立への喫緊の諸課題に対して日本がそのトッランナーとして世界をリードすることが重要であり、そのためには既存の視点からの変革が肝要であること、特に学側研究者は製鉄あるいは製鋼と専門領域をわけて掲げる従来の枠組みを見直し、更には真の持続性社会の確立のためには国境や学界・業界などの領域を飛び越えた連携が必須であるとの提言がありました。

最後に、特に学側研究者に対するメッセージとして、研究課題を自ら生み出して設定することこそが研究者の生命線でありそのために尽力すること、また、鉄鋼あるいは金属といった研究分野を牽引するために、領域内にとどまらず外に向かって挑む力を意識して培うこと、を訴えられました。

200名を超える聴衆にとって大変貴重かつ有意義な講演となり、特に学側研究者の一人として、改めて襟を正し、より一層研鑽することの重要性を再確認する重要な機会となりました。

（文責 松浦宏行（東大））

②討論会「溶融酸化物およびガラスの熱物性評価の進展」

助永 壮平（東北大学）

溶融酸化物の熱伝導度計測高精度化研究会（2022－2024年度）の最終報告会としまして討論会を開催いたしました。「熱伝導度」は溶融酸化物の物性の中で最も理解されていないものの一つですが、高温プロセスの精度に影響する重要な物性値です。本討論会では、熱伝導度の評価方法や組成依存性発現機構の理解を前進させることを目的として行った研究の成果（4件）が報告され、いずれの講

演でも活発な質疑応答が行われました。研究会運営におきまして、高温プロセス部会および高温物性値フォーラムに多大なご支援をいただきましたことを感謝申し上げます。未解決な課題も多数ありますが、本研究会の成果を軸に新たなステージに研究を進めて行きたいと考えます。引き続き、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

③ 討論会「将来の製鉄プロセスを担う若手研究者セッション」

村上 太一 (東北大学)

高温プロセスを取り扱っている今後の活躍が期待されている4名の博士後期課程学生、博士研究員および助教をお招きし、研究の紹介と今後の展望を語って頂きました。元素分析における不確かさの評価、溶鋼中のアルミナ介在物の挙動、水素還元シャフト炉における原料の粉化挙動、酸素貯蔵材料を用いた反応熱制御技術と多岐にわたる研究紹介をしていただき、100名近い参加者を得て、様々な議論

を行いました。各分野の経験豊かな研究者からの質問に真摯に発表者から回答していただくだけでなく、今後の課題についても議論し、若手研究者への期待の高さがうかがえました。

将来有望な若手研究者と深い議論ができ、大変有意義でありました。今後も継続的にこのような企画を設けたいと考えておりますので、その際は皆さんぜひご参加ください。

④ 討論会「凝固過程の介在物生成・成長・変性機構の解明を目指した最新研究の展開」

松浦 宏行 (東京大学)

2020 - 2023年度の4年間に亘り活動しました「凝固過程の介在物生成・成長・変性機構」研究会の最終成果報告として、第189回春季講演大会において「凝固過程の介在物生成・成長・変性機構の解明を目指した最新研究の展開」と冠した討論会を開催致しました。研究会主査より研究会の設立趣旨と活動概要を説明したのち、研究会学側委員から計7件の発表が行われました。凝固プロセスは温度変化、母相の固液界面の生成と移動、およびそれらに起因する合金元素や不純物の固液間分配、等が同時に進行する極めて複雑な現象を伴うため、それらの過程で生じる鉄鋼材料の相変態や介在物析出・変性・成長などの挙動の理解が不可欠です。本討論会では研究会を通じて進められてきた個々の現象に焦点を当てた最新

の研究成果が報告され、産学を交えた活発な質疑応答が行われました。最後に、本研究会活動を引継ぐ形で2025年度より新たに設立した「先端凝固・解析による二次介在物生成予測」研究会の概要が主査の吉川健先生（阪大）より紹介されたのち、産側委員代表として福元成雄氏（日鉄ステンレス）より研究会活動の総括と次期研究会活動への期待が述べられて閉会となりました。多くの参加者に活発な議論を行って頂き、本分野への関心度の高さを改めて認識致しました。これまでの研究会活動に対する関係各位からのご支援に感謝申し上げます。

なお、討論会会場にて研究会成果報告書（無料）を配布致しましたが、若干の残部がありますので、ご希望の方は主査までご一報いただけますと幸いです。

⑤ シンポジウム「鑄造凝固における欠陥のマルチスケール解析研究会」最終報告会 「凝固現象のマルチスケール解析」

研究会主査 及川 勝成 (東北大学)

鉄鋼の鑄造プロセスで生じるマクロ偏析、ひけ巣、割れなどの鑄造欠陥と関連する凝固現象は、ミクロスケールで生じた現象が、マクロスケールの欠陥として現れるマルチスケール・マルチフィジックス現象です。本研究会は、その場観察、モデル実験、シミュレーション解析などによる凝固現象の解析や、高度なシミュレーションツール、データベースの開発を目標として2022年度から3年間活動を

行なってきました。その最終報告会として第189回春季講演大会においてシンポジウムを開催し、60名前後の参加者がありました。鑄造・凝固の物理現象を様々な観点から議論することができ、この分野における知見をより深めることができました。研究会の運営にあたっては高温プロセス部会および凝固・組織形成フォーラムに多大なご支援をいただきました。ここに深く感謝申し上げます。

5.

第188回秋季講演大会学生ポスターセッション受賞者

【優秀賞】

この度は第188回秋季講演大会学生ポスターセッションにおいて「酸化化物融体を反応場とした鉄の還元機構の解明」と題した研究発表を行い、優秀賞を賜りましたことを大変光栄に思います。セッションにおいては、他大学の先生方や企業の方々から様々なアドバイスをいただき、研究に対する新たな視点や知見を得ることができました。私の研究は先行研究がほとんど無かったため、皆様のご助言が大変研究の助けとなりました。この場を借りて感謝申し

福地 唯史 (東北大学)

上げます。本研究が製鉄におけるカーボンニュートラルの手助けとなればと思います。

最後にこのような賞を頂きましたのも、日頃から懇切丁寧にご指導下さった柴田浩幸教授、助永壮平准教授のおかげと存じます。また測定にご助力いただいた学内、学外の皆様、および研究室の皆様に感謝申し上げます。



この度の第188回秋季講演大会学生ポスターセッションにおいて、「CaSの高温濡れ性に及ぼす溶鋼組成CおよびSの影響」と題した研究発表に対して優秀賞を頂き、大変光栄に思います。このような賞を頂いたのも、日頃より懇切丁寧にご指導くださる中島先生、齊藤先生、墨田先生、小川さん（M2）、ならびに山陽特殊製鋼株式会社の吉岡様、島村様のおかげであり、心より感謝申し上げます。

今回のポスターセッションにおいては、多くの大学や企業の方々から質問やご意見をいただき、自身では気づかな

【奨励賞】

この度、第188回秋季講演大会学生ポスターセッションにおいて、「CaO-SiO₂系フラックスの粘度および熱伝導度に及ぼすTiO₂/SiO₂比の影響」と題した研究発表に奨励賞を賜りましたこと、大変光栄に存じます。本賞の受賞に関しましては、日々懇切丁寧にご指導くださる柴田浩幸教授、助永壮平准教授ならびに研究室の皆様のおかげだと思えます。心より感謝申し上げます。ポスターセッションでは、数多くの先生方や企業の方から、様々な視点からのご質問、

この度は「1873 Kにおける溶鉄中La-Cr間の相互作用係数」と題したポスター発表で奨励賞を賜り、誠に光栄に存じます。ポスターセッションでは、多くの企業の研究者・大学の先生方から多角的な視点でのご指摘やご助言をいただき、大変勉強になりました。このような貴重な機会を与えて下さった鉄鋼協会の講演大会に携わる皆様に、心より感謝申し上げます。自身の研究内容を如何に簡潔かつ分かりやすく伝えるかを学ぶ良い機会となりました。自らの

この度、第188回秋季講演大会学生ポスターセッションにおいて「備長炭への事前熱処理が純鉄-炭材圧粉成形体の浸炭挙動に与える影響」と題した研究発表に対し奨励賞を賜り、誠に光栄に存じます。

このような賞を頂きましたのも、日頃からご指導くださった九州大学の太野光一郎教授、昆竜矢助教、ともに研究してきた研究室の皆様のおかげでございします。心より感謝申し上げます。

本研究は学士課程卒業研究において、不十分に感じてい

松野 航太（九州大学）

かったことに気づくことができたため、今後研究を進める上で大変参考になりました。また、ポスター作成や発表練習にあたって、聞き手の立場になって考えることの大切さを学ぶことができたため、大変貴重な体験になったと感じております。

今回の受賞を励みにして、今後の研究生活により一層精進していきたいと思ひます。



内田 稜（東北大学）

ご助言をいただき、今後研究を進める上で大変有意義な時間を過ごすことができました。来年度から社会人になりますが、研究活動を通して得られた経験や物事の考え方を活かし、鉄鋼業の発展に貢献できるような人材になれるよう、より一層精進していく所存です。



大羽 紳也（富山大学）

研究を伝えるだけで終わらず、相手の視点に立って理解してもらうことの難しさを改めて認識し、自分の発表の課題を新たに知ることができました。今回の学びを活かし、研究をさらに深めると同時に自らの成長へつなげていきたいと考えております。この受賞を励みに、より努力を重ねてまいります。



小野 彩奈（九州大学）

た部分を修士課程にてさらに発展させたものであり、今回のセッションに参加したことで、多くの先生方や企業研究者の方々のご意見を伺うことができました。今後の研究の方針を決定するうえで、大変有意義な時間を過ごすことができました。今後は異なる炭材を用いて、より組成の着目した知見を得られるよう精進していきます。



第 188 回秋季講演大会学生ポスターセッションにおきまして、「ガスジェット浮遊法を用いた溶融酸化鉄の水素還元速度の測定」と題した研究発表に対し、奨励賞を賜りましたことを誠に光栄に存じます。

本発表に際しましては、他大学の先生方や学生、企業の皆様から多くのご意見やご質問を頂戴し、自身の研究に対する視野の狭さを痛感すると同時に、活発な議論を通じて新たな視点を得る貴重な機会となりました。この経験を活

この度、第 188 回秋季講演大会学生ポスターセッションにおいて、「サクシノニトリル系模擬合金の凝固過程における介在物品出挙動」と題した研究発表に奨励賞を賜りましたこと、大変光栄に存じます。このような賞を頂きましたのも、川西咲子准教授をはじめとした先生方の懇切丁寧な指導のお陰と心より感謝申し上げます。ポスターセッション当日は広い会場の隅で発表を行っていたにも関わらず、多くの方々に発表を聞いていただき密度の濃い時間を

この度、第 188 回秋季講演大会学生ポスターセッションにおいて、「凝集体粒子の終端速度」と題した研究発表に対し、奨励賞を賜りましたこと、大変光栄に存じます。このような賞をいただいたのも、日頃から懇切丁寧にご指導くださる新井宏忠准教授ならびに研究室の諸先輩方のおかげであり、心より感謝申し上げます。

今回のポスターセッションでは、企業の方々や他大学の先生方と議論を交わし、多くのご意見やご助言を頂戴しま

川島 匠生 (千葉工業大学)

かし、鉄鋼材料分野および高温プロセス分野の発展に寄与できるよう、一層努力を重ねてまいります。末筆ながら、日頃より熱心に指導賜っております小澤俊平先生、栗林一彦先生ならびに JFE スチール関係者様、そして小澤研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。



中尾 温斗 (京都大学)

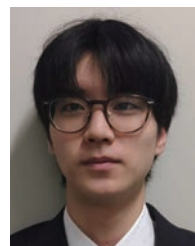
過ごすことができました。大変感謝しております。

発表では多くの方と議論をする中で、私自身の研究に対する理解が深まっていくことを実感し、学会に参加する事の大切さを強く感じました。今後は今回の発表で学んだこと・感じたことを礎としてより一層精進して参りたい所存です。



森田 勇市朗 (八戸工業高等専門学校)

した。自身の知識不足や未熟さを痛感しましたが、多角的な視点を持つことの重要性を再認識するとともに、研究への理解を一層深める大変貴重な機会となりました。また、頂戴したご意見を今後の研究に活かし、より良い研究成果を目指して精進してまいります。



6. 事務局からのお知らせ

1) 博士学生支援の報告

①鉄鋼協会国際学会支援報告書 (ECIC2024)

10 月 16 日から指導教員の村上太一先生とイタリアのバルドリーノにて行われた 9th European Coke and Ironmaking Congress に参加してまいりました。初めての国際会議での口頭発表ということもあり緊張して発表に臨みましたが、本番では練習の成果もあり満足のいく発表をすることができました。他の参加者の方からも大変良い研究であるとお褒めをいただき、十分な手ごたえを感じることができました。また、発表の聴講を通し、現在のヨーロッパにおける研究のスタンスを肌で感じることも非常に大きな経験となりました。セッション中だけでなくコーヒープレークやバンケット中にも研究者の方々

門間 航輝 (東北大学)

と交流し、普段の文献調査では得られない学びや気づきが得られました。質疑応答に関しては満足できるものではなかったものの、充実した国際会議にすることができたと思います。会議終了後は、ガルダ湖沿いをサイクリングしてリフレッシュ。イタリア最大の湖に沈む夕日は格別でした。長時間のフライトやバス酔いなど不安な要素も多い中での初海外出張でしたが、とても充実した出張とすることができました。

最後に、国際会議参加費のご支援をいただきましたこと感謝申し上げます。今後研究を進めるうえで大変貴重な経験をすることができました。今後も日々の研究に邁進してまいります。

②鉄鋼協会国際学会支援報告書 (ASIA STEEL 2024)

Weichen Xie (The University of Tokyo)

I attended ASIA STEEL 2024 held in Changsha, China in September 2024 with financial support from the Iron and Steel Institute of Japan. The conference covered a wide array of topics from ironmaking to hydrogen metallurgy. I presented my work titled “Inclusion Distribution during Unidirectional Solidification of Fe-18Cr-2Mo Alloy” during the Steelmaking and Continuous Casting session. For this work, we utilized unidirectional solidification experiments to investigate the evolution of inclusion distribution with the progress of solidification. Changes of inclusion number densities, average sizes, and compositions during the cooling process were discussed in the presentation. I received comments on the influence of cooling rates and the criteria to

determine solid and liquid phases which made me aware of what had been ignored previously. Besides this, I listened to presentations given by other researchers and got familiar with the current research trend. I also had the chance to talk with representatives from two SEM manufacturers and learn details of some characterization techniques. In the end, I would like to appreciate the financial support provided by ISIJ which allowed me to participate in such a valuable event.

* 2025 年博士後期課程学生を対象とした国際会議等参加費支援募集案内につきましては、下記 URL よりご確認ください。

<https://www.isij.or.jp/news/news2025/20250411.html>

2) 「製鉄工程におけるバイオマス利用高度化・拡大に関する調査研究グループ」活動報告

主査：阪大名誉教授 碓井建夫、副主査：東北大名誉教授 有山達郎、幹事長：鈴鹿高専 小西宏和

令和 4 年 4 月に標記研究グループが「資源・エネルギーフォーラム」内に設置され、3 年度に渡る活動を終えた。標記テーマは「鉄鋼業の CN に向けての高炉の橋渡し技術」に位置づけられるが、これを含めて、広く「鉄鋼業の CN」に関する世界全体の取り組みや「エネルギー・素材産業」における CN に向けた進展にも注目し、毎年秋に講演会を開催した。

第 1 回は、「研究・イノベーション学会 関西支部」との共催で、4 年 11 月 15 日に大阪電気通信大学にて、「2050 年カーボンニュートラルの実現」と題して Zoom 併用で次の講演を行った。

- (1) 日本製鉄におけるカーボンニュートラルに関する取り組み (日本製鉄 尾藤 貴氏)
- (2) 世界的視野から見た鉄鋼業のカーボンニュートラルの論点 (東北大学名誉教授 有山達郎)

日本製鉄の CN の取り組みと、海外の動向を俯瞰した。

第 2 回は、WS「ビジュアルになりつつある鉄鋼のグリーン・トランスフォーメーション戦略と新たな方策の探索」と題して、5 年 11 月 13 日に、東京工業大学蔵前会館にて、現地参加者のみで開催した。

- (1) 鉄鋼業のグリーン・トランスフォーメーションに向けての国際動向 (東北大学名誉教授 有山達郎)
- (2) 商社の考えるグリーン・トランスフォーメーション将来戦略 (三菱商事 財部誠太郎氏)
- (3) 地政学から見たエネルギーセキュリティとグリーン・トランスフォーメーション (エネルギー総合工学研究所 小野崎正樹氏)
- (4) バイオマス転換 ～ カーボンニュートラルからネガ

ティブへ (九州大学教授 林 潤一郎氏)

- (5) 韓国のグリーン・トランスフォーメーション戦略 (POSCO Dr. Sanghan Son)
- (6) The Green Transformation in Chinese Ironmaking Industry (北京科技大教授 Dr. Jianliang Zhang: On-line 講演)
- (7) EASyMelt-An alternative net-zero low coke steelmaking solution: The advantageous usage of NH₃ as green reductant for integrated steel making (Paul Wurth Dr. Peter Kinzel: On-line 講演、IHI 成野秀一氏)

有山副主査を中心に企画がなされ、我が国を含む世界各国の CN に向けた先進的な取り組みを網羅する意欲的な WS となった。

第 3 回は、前記関西支部との共催で、6 年 11 月 22 日に、大阪市平野区民センターにて、「鉄鋼および素材エネルギー産業におけるゼロカーボンの新たな探索」と題して Zoom 併用で次の講演を行った。

- (1) 2050 年鉄鋼ゼロカーボンへの Pathway 戦略の選択 (東北大学名誉教授 有山達郎)
- (2) カーボンリサイクル技術「高収率 CO₂ → CO 変換技術」の鉄鋼産業ならびに化学産業への活用 (積水化学工業 中間友樹氏)
- (3) SOEC メタネーション技術による e-メタンが切り拓く暮らしや産業のカーボンニュートラル化 (大阪ガス 大西久男氏)

2050 年に向けての CN に資する先端技術開発の動向を、鉄鋼産業と素材エネルギー産業の英知を結集した多角的視野から議論した。

3) 第 190 回秋季講演大会開催までのスケジュール

第 190 回秋季講演大会は 2025 年 9 月 17 日(水)～19 日(金)北海道大学・札幌キャンパスで開催されます。各種申込・原稿提出締切日を確認いただき、手続きをお願いいたします。

【第 190 回秋季講演大会 討論会・国際セッション】

申込・原稿提出締切：2025 年 6 月 10 日 (火) 17:00 厳守

【第 190 回秋季講演大会 一般・予告・共同セッション】

申込・原稿提出締切：2025 年 6 月 17 日 (火) 17:00 厳守

7.

高温プロセス部会委員構成

●運営委員会

部会長	林 幸	東京科学大	委員（講演大会協議会、資源・エネルギー F 座長）	山本 哲也	JFE スチール
副部会長（一般表彰 WG）	小野 英樹	富山大	委員（企画担当リーダー / サステナブルシステム部会委員）	松浦 宏行	東大
副部会長（一般表彰 WG）	樋口 謙一	日本製鉄	論文誌編集委員会		
			委員（製鉄プロセス F 座長 / 講演大会協議会代表委員）	村上 太一	東北大
			委員（精錬 F 座長）	小林 能直	東京科学大
			委員（凝固・組織形成 F 座長）	梶 千修	秋田大
			委員（ノーベルプロセッシング F 座長）	檜村京一郎	中部大
			委員（高温物性値 F 座長）	小澤 俊平	千葉工大
			委員（若手 F 座長）	加藤 謙吾	富山大
			委員（振興助成審査委員会）	木村 世意	神鋼
			顧問	柴田 浩幸	東北大

●研究会 I

次世代環境調和型コークス製造技術	鷹觜 利公	産総研
高水素高炉用焼結鉱の製造と特性評価	林 幸	東京科学大
水素富化高炉炉下部融体の滴下挙動可視化	大野光一郎	九大
先端凝固・解析による二次介在物生成予測	吉川 健	阪大